

一般会計予算 199億9000万円

(前年度 194億6500万円)

平成29年度の鶴ヶ島市一般会計予算と特別会計予算（5議案）は、所管の常任委員会に付託され、審査されました。
委員会での審査結果は、いずれも「可決すべきもの」で、最終日の本会議での採決の結果、可決されました。

「鶴ヶ島版ネウボラ」など子育て支援を充実！ 小学校のトイレを改修！

Q 増額の理由は。
A 資産管理課長 販売実績などを参考に設置箇所の組合せを見直したことが及び設置場所の追加を行ったことによるものである。

Q 防災ラジオ個人負担金
A 電波法の改正に伴う防災行政無線のアナログ方式からデジタル方式への移行により、今後、防災ラジオが使用できなくなる旨の周知は。

Q 安心安全推進課長 市民には切替えの日時を明確にし、広報紙やホームページ、市民センター等への貼り紙等で周知をしていきたい。また、デジタル化への切替え時までは、防災ラジオ給付希望者に口頭説明をして頒布する。

時間外勤務手当

Q 事務量の増加と職員数の減がある中で、27年度の決算額よりも予算を減らした理由は。
A 人事課長 時間外勤務については、管理職が事務を把握し、緊急性を十分考え、事前命令を行うことを徹底している。29年度には九都県市合同防災訓練及び市長選挙が予定されているが、それらを勘案した予算を計上している。

地域支え合い推進事業

Q 新たに地域支え合い協議会の設立を検討している地域との話し合いや支援は。
A 地域活動推進課長 自治会長や自治会役員、民生・児童委員などと地域の課題や取組の情報交換を進める。既に活動している協議会の方に活動事例を説明していただくなどしながら、設立に向けた話し合いを進めている。

Q 戸籍・住民基本台帳管理運営事業
A 窓口アンケート調査に係る不祥事後の窓口の現状と、窓口改善による市民サービスの向上は。
A 市民課長 28年2月からのマイナンバーカードの交付により一時的に窓口が混雑した。現在は順調に窓口運営が行われているが、混雑時にはフロアに職員が出て発券機の受付案内等をし、混雑を緩和していく。また、毎朝の挨拶運動等を行うことで士気を高め、迅速な対応など誠心誠意の窓口対応を心掛けている。

市長選挙執行経費

Q 移動期日前投票所の開設に至る経緯と開設場所は。
A 選挙管理委員会書記長 県から不在者投票施設に指定されるためには病床数等の条件があるが、市内にはその条件を満たさない病院や老人ホームがある。そのような場所を回ることができれば、今まで投票できなかった人が投票できるのではないかと考えたものである。各施設の希望の有無や対象者を確認した上で実施する。

Q シルバー人材センター活動支援事業
A 不祥事があった公益社団法人鶴ヶ島市シルバー人材センターの健全性の保持は。
A 高齢者福祉課長 シルバー人材センターとは年4回の情報交換会を実施し、事業運営の状況や会員の入会状況、契約状況等を確認してきた。高齢者の雇用や生きがいという同じ目的を持って連携しているため、組織体制面での支援の要請があれば、支援をしていきたい。

Q 子育て包括相談・支援事業
母子健康包括支援事業
Q 鶴ヶ島版ネウボラの展開は。
A 1所長 子ども支援課に子育て支援相談員を、保健センターに

は助産師の母子保健コーディネーターを置き、連携をして相談を行う。必要に応じ、個々に応じた保健と福祉の支援サービスプランを作成し、具体的な支援や利用につなげていく。産前から面談等を重ね、産後やその後の子育てにおいても信頼関係を築いていく。医療機関や関係機関のほか、地域との連携にも努める。

ネウボラとは
フィンランド語で「相談やアドバイスの場」という意味です。妊娠期から子育て期にわたるまでの切れ目のない子育て支援の拠点を指しますが、日本でも自治体ごとに特色を生かした地方版ネウボラが広がり始めています。

小規模保育事業

Q 開設する3か所の施設の安全性は。
A 子ども支援課主席主幹 認可外の保育施設から移行する2施設には、年1回の立入調査で保育の様子や設備全般を確認している。残りの1か所は、認可保育施

